

第2学年 国語科学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日(金)
2. 単元名 とう場人ぶつになって読もう「かさこじぞう」(全14時間 本時10時間目)
3. 単元目標

○場面の様子や登場人物の気持ちなどを、想像を広げながら読み取ることができる。
○読み取ったことを音読に生かしながら、楽しんで音読をすることができる。

4. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

(1) 児童の実態

<2年生の子どもたち>

本学級の児童は、明るく前向きな児童が多く、良いことに進んで取り組もうとする姿勢が感じられる。係活動は、自分たちで声をかけあって取り組み、係の友だちと協力して行っている。さらに、帰りの会などで、クラスみんなに**係で決まったことやお知らせしたいことを積極的に伝え合っている**。自分の思いを素直に表現できる児童が多い反面、友だちの話をしっかり聴いていなかったり、友だちや教師の話を遮って話し出してしまうことも多くある。また、活発な雰囲気にならされてしまう児童もいる。

本を読むことが好きな児童が多く、読書タイムには集中して読書に親しんでいるため、想像を膨らませて物語を読むことができる児童が多い。図書室を利用したり友だち同士で貸し借りをしたりしながら、たくさんの本を読んでおり、「スイミー」の学習の時には、同じ作者の本を探して読むなど読書の幅が広がった。昔話については、読み聞かせをしてもらった経験のある児童は多いが、自分でじっくり読んだ経験のある児童は少ない。そのため、昔の道具や生活についての理解が不十分ではないかと考えられる。学級文庫に昔話の本を置いたり、教師の読み聞かせを行ったりして、昔話に触れる機会を作っているところである。

<聴く・話すについての指導>

「聴くこと」については、友だちの考えを聴くことよりも、自分の話したい気持ちが強い児童が多い。そのため、4月から**最後まで友だちの話を聴いてから話すこと**や、**相手を見てうなずくといった反応をすること**、そして**自分なりにじっくり考えること**を大切にしてきた。少しずつではあるが、友だちの考えに素直に反応できたり、自分の考えにこだわりをもって話すことができたりする児童が増えている。

「話すこと」については、日直のスピーチや帰りの会での「今日のキラキラさん」の発表など、定期的に人前で話す場を設けている。そのため、形式の決まった発表をするときや、自分が事前に考えて書いたものを発表するときには、全員がみんなに伝わる声の大きさと話すことができる。しかし、国語や道徳などで、自分の考えを話すときには、自信がなく声が小さくなってしまったり、どう伝えたらよい

か分からずに固まってしまうたりする児童もいる。自信をもって話すことができるよう、多様な考えが認められるような雰囲気づくりを心がけている。また、自分の考えをしっかりとつことができるように、考えをもつ時間の確保や、何について考えればよいか、分かりやすい発問にしていけることも心がけている。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

ペアやグループでの活動では、相手の意見を聞こうと、友だちの意見を引き出したり自分の思いを伝えたりしようとしている。しかし、クラス全体で話し合いをするときには、まわりの友だちと相談はするものの、全体では伝えられない児童が多い。同じ児童が度々発言しているときは、その児童と話していたグループの子を指名したり、他の考えをもっている児童を意図的に指名したりしている。そのような取り組みのくり返しによって、考えに自信をもって話したり、自分と違う考えに興味をもって聴いたりすることができるようになってきた。

2年生の国語では、「スイミー」や「きつねのおきゃくさま」を学習している。「スイミー」の「ふしぎ」として「どうしてだんだん元気になっていったのだろうか？」という問題を話し合ったが、根拠をもとに考えている児童がいる一方で、話し合いが進んでいくと想像が膨らんでいき、根拠のない考えになってしまうことがあった。これは相手が示した根拠についての意識が薄く、ひびき合いの状態からはかけはなれてしまっていた。

「きつねのおきゃくさま」でも、場面ごとのきつねの気持ちを想像してみんなで話し合った。「きつねは、なんでおおかみとたたかったんだろう？」という問題について考えた時には、きつねの気持ちの変容についての考えが分かれた。児童の考えを把握して意図的に指名をしたり、立ち止まって考えるように支援したりしたことで、自分の考えにこだわりをもって堂々と意見を伝えたり、友だちの考えも知らうと「〇〇くんはどう思う？」と聴いてみたりと、まわりの友だちと自然に話し合いが始まるようなこともできていた。

(2) 単元と指導

<単元について>

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導事項「ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」「オ 文章の内容と自分の体験を結びつけて、感想をもつこと。」にあたる。また、「我が国の言語文化に関する事項」の「ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。」にあたり、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにすることが大切である。

本教材「かさこじぞう」は、貧しい暮らしぶりでありながらも明るく前向きに暮らす心優しい老夫婦と地蔵さまの**温かい心の交流**が描かれた、とても味わい深い作品である。昔話特有の語り口調や方言が用いられたり、擬声語や擬態語が使われたりすることによって、楽しく親しみやすい表現がなされている。会話文も多く、話の展開も分かりやすいため、児童は登場人物の心情や性格を豊かに想像しながら、楽しんで昔話の世界に浸ることができるだろう。また、昔話は、世代を超えて語り継がれてきた話であることから、音読で表現することによって昔話独特のおもしろさを味わうことができると考える。

そこで、本単元では、音読による表現活動を取り入れていく。読み取ったことを音読に生かしながら表現していくことで、語ることの楽しさを感じるとともに、昔話の語り口や方言調の心地よい言葉の響きやリズムをより一層感じながら、読みを深めることができるようにしていきたい。また、登場人物の行動を想像して気持ちを読み取っていくためには、具体的にイメージすることが大切である。場面の時間や場所、周囲の風景などの様子を基に、登場人物が何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりしながら時代背景や語句を理解していくことが重要である。

<指導について>

昨年の2年生が「かさこじぞう」の音読劇を行い、児童は招待してもらっている。そのため、本学級の児童はすでにこの物語に触れていることになる。今回、この「かさこじぞう」の物語に再び出会い、改めて読みなおしていただくことで、昨年の2年生が音読劇をしたように、自分たちも「1年生に読み聞かせをしたい」という思いをもつのではないか。そのためには、言葉の理解や登場人物の気持ちを読み取っていくことが大切であることに気づくだろう。児童の「昨年の2年生に負けないような音読劇をしたい」という気持ちを高め、物語の読み取りへの意欲につなげたい。

「かさこじぞう」の物語に出会う前に、昔話の読み聞かせを何度か行うことで、昔の暮らしについての理解を少しでも深めておくようにしたい。初発の感想では、児童から「心に残ったこと」や「ふしぎに思ったこと」が出てくるようにしたい。そのためには、場面の時間や場所、分からない語句などを理解するための時間が必要であり、その後に感想を交流したり問題を作ったりしていきたい。時代背景などをおさえることで、「なんでじいさまは、売り物のかさと自分の手ぬぐいをじぞうさまにかぶせてあげたんだろう?」「なんであいどりのまねなんてしたのかな?」などの疑問や、本時の問題である「じぞうさまは、なんで会っていないばあさまのことも歌っているんだろう?」も出てくるだろう。そうした気付きは、他の児童にも共有していくことで、クラス全体の問題となっていくだろう。そこを読み取ることは、じいさま同様にばあさまも思いやり深く、報いるべき人間であるということへの理解にもつながっていく大事な部分であると考えている。

この物語は、リズムの良い語り口調で書かれているため親しみやすいが、昔話であるため時代背景や語句などを理解できていないと、登場人物の本当の気持ちにせまることがむずかしい。したがって、場面ごとに順番に読み取っていき、丁寧に時代背景や語句などを考えていけるようにしていきたい。実際にすげがさを用意したり、氷水に手をつけたりして凍えた手でじいさまの「雪をかきおろす」などの行動をしてみることで、気持ちにせまれるようにしていく。

また、登場人物の気持ちをしっかり読み取っていくために、動作化も取り入れていきたい。そして、読みを深めて時代背景を理解していくことで、その後の音読劇に生きてくるであろう。

本時の子どもの解決したい問題は、「「じぞうさまは、なんで会っていないばあさまのことも歌っているんだろう?」」である。ここまでの話し合いで、じいさまとばあさまが貧しい生活の中でも、相手を思いやり生活していることに気づいている児童は多いだろう。しかし、じぞうさまの行動について、ばあさまの優しさを根拠に考えることのできる児童は多くはないと考えられる。「前時までの登場人物の人の柄や行動についての読みを根拠としながら、じぞうさまがばあさまのことを歌うわけを、友だちと意見を交換しながら自分の考えを深めていく姿をひびき合う姿とする。」そのために、前時までの気持ちの読み取りを振り返ることができるような掲示物を用意したり、板書で児童の考えや根拠を位置付けていたりして、話が整理されるようにしていく。そうすることで、じぞうさまがばあさまのことを歌っている様子を思い浮かべ、感情を込めて音読していくことに生かせるようにしていきたい。

単元目標

- 場面の様子や登場人物の気持ちなどを、想像を広げながら読み取ることができる。
- 読み取ったことを音読に生かしながら、楽しんで音読をすることができる。

事前の学習

さざなみ会による民話の読み聞かせ
「ぼたもちがえる」「こがねのあめ」
・言葉がむずかしかった。
・話を全部覚えていてすごい！
・こわいばあさんだった。

教師の読み聞かせ
「雪わらしのうた」「ごろはちだいまようじん」
・読んだことある！
なんか言い方が違う
昔ってそんなくらしだったんだね。

「かさこじぞう」って、どんなお話だろう①②③

語句・登場人物・場面の確認 分からない言葉の確認 登場人物ーじいさま・ばあさま・じぞうさま
感想と交流 ・去年、前の2年生が音読してくれたよ！ ・おぼえてる！ ・やってたね。
・むかしの言葉がおもしろい。 ・じよいやさってなんだろう。
・じいさまがじぞうさまにかさと手ぬぐいをかぶせてあげてやさしい。 ・じぞうさまもやさしい。
・ばあさまもやさしい。 ・よいお正月がむかえられてよかった。
・なんでかさ売れなかったの？ ・なんでじぞうさまが動いたの？
・なんでじいさまは、売り物のかさと自分の手ぬぐいをじぞうさまにかぶせてあげたんだろう？
・ばあさまは、かさが売れなかったのに、なんでいやな顔ひとつしなかったんだろう？
・じぞうさまは、なんでばあさまのことを知っていたんだろう？ ・なんでじぞうさまは、おれいをしたんだろう？
・なんでなにも無いのにあいどりのまねなんかしたのかな？

登場人物と場面の確認をする。
お話の流れを簡単に確認する。
語句や時代背景を確認する。

子どもたちの感想
・心に残ったこと
・不思議に思ったこと
から課題を作っていく

1年生と6年生に音読げきをしよう！

どうしたら上手に音読できる？④

・はきはきと言うといいと思う。 ・元気に音読する。
・じいさまとばあさまになりきる！
・気持ちを込めて音読する → **どんな気持ちなんだろう？**
だれの気持ち？ みんなで考えよう！

第2場面のじいさまは、どんな気持ち？⑥

・かさこ売れないかな。
・だれもふりむいてくれない。
・年こしの日には売れないか。○○○
・おばあさんが悲しむだろうな。
・どうしよう。
・しょうがない。帰ろう。

売っている人みんながいい
正月を迎えたいと思っている

挿絵からも服装の違いなどを読み取り、まわりの人たちとの違いに気づくようにしていく。

第4場面 ばあさまは、かさが売れなかったのに、なんでいやな顔ひとつしなかったんだろう？⑧

・もともとかさは売れないって思ってたんじゃない？
・じいさまが無事に帰ってきたから。
・「じぞうさまも、この雪じゃ、さぞつめたかろうもん。」
・じいさまがとてもいいことをしたから。
・ばあさまがやさしいからだよ。

「ええこと」に着目し、
ばあさまも地藏さまを
敬い大事に思っている
ことを読み取っていく。

今までは、じいさまとばあさまの気持ちを読み取ってきたが、ここでは地藏さまが主語であることを確認する。

第1場面のじいさまとばあさまは、どんな気持ち？⑤

・すごいびんぼうでつらい。 ・なんにもなくて大変って思っている。
・すげかないって、本当になんにもない。
・お金もないし、食べ物もない。どうしよう。
・何にもないから、なんとか売れるものを作ろうと思った。
・かさが売れて、食べ物を買えるといいなって思っている。
・もちこ買って正月をむかえたい。

・板書で読みの広がりが見れるように、構造化していく。
・くらしの様子がわかるように、挿絵の様子も読み取っていく。
・すげがさや障子を用意して、くらしの様子を知る。

第3場面 なんでじいさまは、売り物のかさと自分の手ぬぐいをじぞうさまにかぶせてあげたんだろう？⑦

・雪にうもれていてかわいそう。 ・おじいさんはとてもやさしいから。
・おじぞうさんはとてもたいせつなそんざい。
・これをかぶって、少しでも雪や風よけになりますように。
・ばあさまも分かってくれるはずだ。

読書を楽しむとともに、場面や人物の様子を想像できる(読む)

キーワード

- ★つぎはぎの手ぬぐい
- ★かきおろす
- ★ふきさらし
- ★やっと安心する

「ひどいふぶきの中」という状況がわかるように、寒さを体感したり、じいさまの様子を動作化して読み取っていく。

第4場面 なんでなにも無いのにあいどりのまねなんかしたのかな？⑨

第5場面 なんでじぞうさまは、おれいをしたんだろう？

相手を思いやる優しい気持ちを想像している(読む)

・びんぼうで大変だから。
・大そうびんぼうだったって知ってたんだよ。

・じいさまがやさしいから。
・雪をかきおとして、かさをかぶせてあげたから。
・自分も雪の中寒いのに、手ぬぐいまでかぶせてくれたから。

第5場面 じぞうさまは、なんで会っていないばあさまのことも歌ってるんだろう？⑩本時

・じいさまか知らないはずなのになんでだろう。 ・ばあさまもかさを作ってくれたから。
・じいさまとばあさまの家に行くから。 ・手ぬぐいもばあさまが作ったのかも。
・空からいつもみていたんじゃない？ ・ばあさまもおそなえ物とかしてたんだよ。
・じいさまもばあさまもやさしい人だから。
・ばあさまも思いやりがある人だから。
・じいさまと頑張っているのを見ていた。

第5場面のじいさまとばあさまは、どんな気持ち？⑪

・とてもうれしい。 ・もちが食べられる。 ・いいことをしてよかった。
・雪の中、大変だっただろうに。 ・なんてやさしいじぞうさまなんだ。
・なんてありがたいんだ。これでお正月を迎えられる。
・もう音読かんべきだよ！

動作化をして、正月を迎えられる喜びや贈り物に対してのお礼、感謝の気持ちを読み取っていく。

音読発表会をしよう⑫⑬⑭

・かさを作りたいな。 ・グループでやる？
・1年生や6年生に喜んでもらいたいな。
・上手に音読できたよ！ ・気持ちをこめて読めるようになったよ。

語のまとまりや登場人物の気持ちを想像して読むことができる(読む)

6. 本時について

(1) 本時目標

・読み取ってきたことをもとに「なんでじぞうさまは、ばあさまのことも歌っていたんだろう？」を話し合うことで、登場人物の人柄について読み取ることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<div data-bbox="145 375 235 893" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>今日の学習のかんそうを書こう。</p> </div> <div data-bbox="268 375 358 1220" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>とうじょう人ぶつの気持ちを思いうかべて、音読しよう。</p> </div> <div data-bbox="392 359 750 422" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ばあさまへのかんしゃ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ じいさまもばあさまもやさしい人。 ・ ばあさまも思いやりがある人。 ・ じいさまと頑張っているのを見ていた。 <div data-bbox="784 359 1030 422" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>声が聞こえた</p> </div> <p>「ばあさまがっかりするじゃろうのう」 が聞こえていた。 2場面のおわり</p> <div data-bbox="1064 359 1332 422" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>かみさまだから</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ じぞうさまだから、わかるんだよ。 ・ じいさまとばあさまの家に行くから。 ・ 空からいつも見えていた。 <div data-bbox="1332 359 1422 1340" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>なんでじぞうさまは、ばあさまのことも歌っていたんだろう？</p> </div> <div data-bbox="1444 359 1590 1340" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第5場面 かさこじぞう いわさき きょうこ</p> </div> <div data-bbox="448 1037 1243 1436"> </div>	<p>主な支援・留意点【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時までに取り取ったじいさまとばあさまの心情や情景を想起しやすくするために、揭示しておく。 ○本時のめあてを確認する。 ○本文を読み、内容を確認する。 ○自分の考えを書いたワークシートや教科書を読み返し、確認する。 ○名前カードを用いて、誰の考えか明確にする。 ○考えに困る様子であれば、ペアワークの時間を設けたり、じぞうさまがそりを引いている様子の動作化を取り入れたりして、根拠がさらに明確になるようにする。 ○子どもたちが何について話し合えば良いか明確にする。 ○登場人物の気持ちについて考えたことをもとに、音読をする。 <p>◆ 叙述をもとに読み取ってきたことを、話し合おうとしている。【関心・意欲・態度】</p> <p>◆ 話し合いを通して、登場人物の人柄についての読みを深めている。【読む】</p>